

# 皆さんに愛される 日本銀行秋田支店を目指して

真 鍋 隆

(日本銀行秋田支店 支店長)



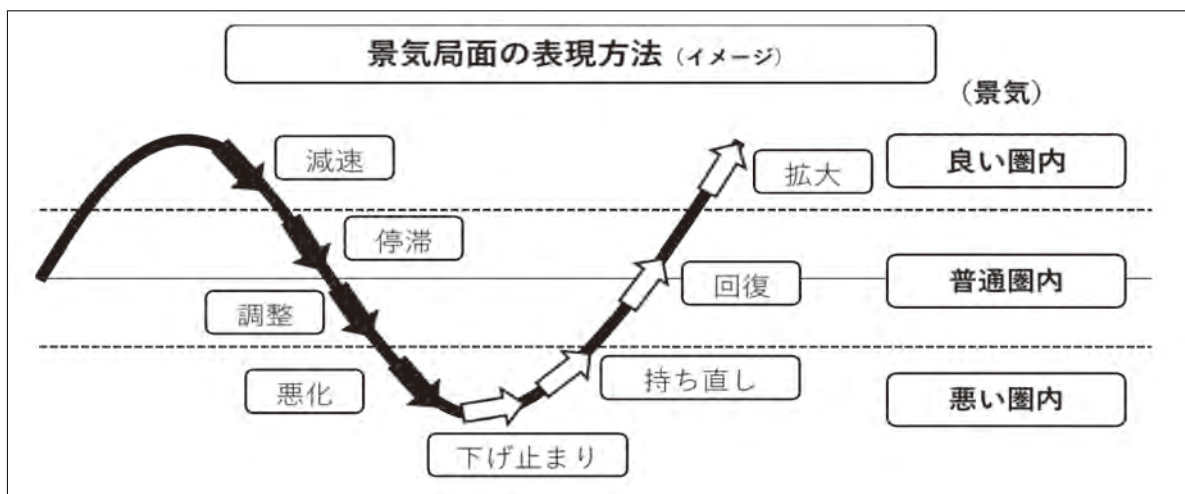
## ■日本銀行秋田支店の言っていることがよく分からない

「景気が『持ち直している』とはどういうことか」

最近、ある講演会で講師をした時、会場参加者から出た質問である。辞書で調べると、「持ち直し」は、「一度悪くなった状態が、もとの良い状態に向かう」である。質問された方も、現在の秋田の景気が、その定義に当てはまるのかを疑問に思われたのだと思う。その場で私はこう答えた。「言葉の定義通り、以前よりは良くなっているが、『回復』にはまだ程遠い状況なのです」と。残念ながら、質問者の方はさらに聞いてくることはなかった。

恐らくこれを読まれた皆さんも、この質問者の方と同様、きっと黙り込んでしまうと思う。それは、私の回答が非常に的確であったというより、何だか煙に巻かれたという感覚ではなかろうか。実は、こうした対応は、日本銀行秋田支店長である私が一番やってはいけないことのひとつである。恐らく質問された方はこう思ったであろう。日本銀行秋田支店の言っていることはよく分からない、と。

その時の反省を込めて、この場で皆さんに、なるべく分かり易く説明しようと思う。我々が表現している景気の表現（「持ち直し」）は、①水準感と、②方向性の2つの要素で成り立っている。つまり、①景気は「良い」、「普通」、「悪い」のどの圏内にあつて、②「良い」、「悪い」のどちらの方向に向かっているか、ということである。このように言葉で説明しても分かりにくいので、下図も見て頂くとより理解が進むと思う。



「持ち直し」と我々が言っているのは、言い換えると、「景気は悪い圏内だけど、良い方向に向かっている」ということである。ゆえに、景気の水準感だけを示すと、現在の秋田の景気は悪いのである。そして私が何気なく言った「回復」というのは、その一つ上の段階、すなわち景気が普通圏内に戻ることであり、ここまで説明すれば、「まだ程遠い状況なのです」と言った私の発言も理解頂けるのではないかと思う。そうであれば初めからそう説明すれば良いのに、というご指摘もあると思うが、一般的に、こうした景気を総括する言葉は、受け手に意味が明確に伝わるよう、なるべくシンプルな表現が望ましいとされている。政府や日本銀行の本店、各支店では、前掲の図を参考にしながら、なるべく表現の統一を図るようにしており、今後も「持ち直し」、「回復」といった表現を、新聞の紙面や講演会の資料等で見かけることが多いと思う。とはいえ、何も知らない人にとっては分かりにくいのは確かなので、今後、私の講演会では、前掲の図もお見せしながら、説明していきたいと思っている。日本銀行秋田支店の言っていることが、少しでも分かって頂ければ有難い次第である。

## ■日本銀行秋田支店のやっていることもよく分からない（1）

そこまでお話しすると、そもそも、なぜ日本銀行秋田支店が当地で景気を判断しているのかと疑問に思う読者もいるかもしれない。因みに、当店では、ほぼ毎月のペースで、当地の景気判断（「県内経済は持ち直している」とか）を行っているほか、短観という企業調査で、四半期に一度、当地企業の景況感や事業計画等を取り纏めて公表している。もし、こうした質問に対し、「支店では、日本銀行の金融政策運営に活かすため、地域の経済動向に関する情報収集・分析を行い、地域経済の発展のために情報還元をしている」と答えると、再び皆さんは思うだろう。日本銀行秋田支店のやっていることもよく分からない、と。

そこで、私なりの解釈で皆さんに分かり易く説明すると、こうなる。まず日本銀行の支店が存在する究極の目的は、支店管内のお札の管理だと思っている。そして「お札を管理する」には、支店において以下の三つの役割を果たす必要がある。

一つ目の役割は、日常において、当地の誰もが、必要な時に、必要なだけ、本物のお札を手に入れることができるようにすることである。支店はそれを裏方として支えている（難しい言葉でいえば、現金供給等を行っている）。

二つ目の役割は、当地のお札を管理する立場として、毎日、どのくらいのお札が皆さんの手元に渡り、当地のお店などで使われているのか、さらに、これからどのくらいのお札が必要となるのか、「当地」のお札の流れを知ることである。ただ、これは言うほど簡単ではない。秋田支店の金庫内の動き、すなわち「当店」のお札の流れをみれば分かるかといえば、そうでもない。お札は当店を出ていき、暫くして戻ってくるが、それをいくらみても、どれだけ多くの人にお札が手渡されて当店に戻ってきたのか、「当地」でのお札の流れは分からない。また、例えば、皆さんが当地で手に入れたお札を東京ディ

ズニーランドで使った場合も、「当店」でお札は動くものの、「当地」でのお札の流れは分からない。

ではどうするかといえば、実際に「当地」のお札の流れをみている皆さんに聞けば良いのである。その一つが、例えば、一か月のお店の売上高であり、それを多くの皆さんから集めたのが大型小売店売上高である。他にも、当地企業の設備投資計画や、県内雇用の所得等もある。こうした色々な数字をみて、「当地」のお札の流れを知ろうとしている。

勘の良い方はお気づきかもしれないが、「お札の流れ」は「景気」と表裏一体ともいえる。お札の流れが良い（例えば、お店の売上高が増加している）ときは、お店の景気も良く、その逆も然り。ただ1点、足りないのは数字に表れない、当地の皆さんの気持ちの部分である。景気は、「気」と言われるように、お店の売上高だけみても分からない部分がある。これを補うため、支店長である私を含め、当店職員は、日々街中に出て、企業経営者の皆さんに「気」持ちを聞きに行っている。支店長である私の場合、「気」持ちを聞く企業訪問は多い時で月20先。ほぼ毎日1先のペースである。秋田市内のみならず、北は能代、大館や鹿角周辺、南は由利本荘周辺や、横手や湯沢周辺、東は田沢湖周辺、西は男鹿半島など、県内の至る所にお邪魔している。

このように、日本銀行秋田支店が当地の景気を、数字と「気」で判断しているのは、「当地」のお札の流れを知ろうとする当店の必要不可欠な役割の一つだからである。ではなぜ対外的に公表するかといえば、日頃からご協力頂いている皆さんに、感謝を込めて情報還元しているのだと私は理解している。そして、当地の皆さんには、この情報を上手く活用して、ご商売の繁栄に繋げて欲しい、と思っている。

## ■日本銀行秋田支店のやっていることもよく分からない（2）

ここまで読んで、日本銀行秋田支店の言っていることも、やっていることもよく分かったよ、と思う読者も多いと思うが、実はここまでご紹介した話は、普段の顔。実はもう一つ、普段見せない顔がある。

それが三つ目の役割である、「非常時」での支店管内のお札の管理である。これは秋田で何か大規模な災害が発生した時に発揮される機能であるため、普段お見せすることはないが、これこそが日本銀行秋田支店の最大の存在意義だと私は思っているので、ご紹介したい。

大規模災害が発生した時、皆さんは最初に何を思うだろうか。多くの人は、万が一に備えて、当座のお金を手元に持っておきたいと考える。そんな時、日常であれば、最寄りの銀行やコンビニなどのATMに行けば、当たり前のように指定したお札が出てくるが、非常時になるとそうはいかなくなる。最寄りのATMに皆さんが殺到すると、あっという間に「お取り扱いできなくなりました」の画面となる。その場合、裏方ではATMにお札を補充するが、それが県内の何百台のATMとなると、裏方のお札の在庫もな



くになってしまう。そんな裏方のピンチに最後に登場するのが日本銀行秋田支店である。前述の一つ目の役割でお伝えした、当地の誰もが、必要な時に、必要なだけ、本物のお札を手に入れることができる機能を非常時にも果たすべく、この時ばかりは、日本銀行秋田支店が表舞台に出て当地を支えるのである。

でも、そんな直ぐに用意できる沢山のお金があるの、と心配する方もいるかもしれないが、支店長である私が、ありますと断言しますのでどうぞご安心ください。もちろん、そのお札が一体どこに、どのくらいあるかは秘密ですが。

## ■皆さんに愛される日本銀行秋田支店を目指して

日本銀行秋田支店について、私なりの解釈も含め、なるべく分かり易くご紹介したが、如何だっただろうか。このように役割を中心に説明すると、秋田の皆さんを支えたり、情報還元をしたりといった、与える (give) 面がどうしても前に出がちである。でも、実際には、それ以上に秋田の皆さんから応援して頂いている (take)。これは企業経営者や県内の皆さんにお会いする際、いつも感じることである。世の中は何事においても、持ちつ持たれつであり、そうでなければ、日本銀行秋田支店は当地で105年も続かないはずである。今後も、ギブアンドテイク (give and take) の精神で、皆さんに愛される日本銀行秋田支店を目指しますので、どうぞご最良に。宜しくお願いします。

### 日本銀行秋田支店の概要

1	代表者名	支店長 真鍋 隆
2	所在地	秋田市大町2丁目3番35号
3	電話番号	018-824-7800 (代表) 018-824-7815 (お札や硬貨に関する照会) 018-824-7819 (国庫金に関する照会) 018-824-7802 (各種公表資料や金融経済に関する照会) 018-824-7814 (秋田県金融広報委員会事務局)
4	F A X	018-888-1070
5	U R L	<a href="https://www3.boj.or.jp/akita/">https://www3.boj.or.jp/akita/</a>
6	設立	1917年8月1日
7	職員数	37名
8	事業内容	総務課：地域の金融経済情勢の把握 (情報収集・分析)、 広報、内部管理 発券課：銀行券・貨幣の受払、損傷通貨の引換 業務課：金融機関との当座預金の受払・貸出等の取引、 国庫金の受払